

2024年 2月 9日

2022年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 ほっとスペース八王子

代表者・役職名 氏名 市川 明美

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

映画「夜明け前 呉秀三と無名の精神障がい者の100年」上映会 & シンポジウム

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

精神障がい者の安心していられる居場所を作ろうと1995年に当事者運営の共同作業所として設立されました。当事者主体・当事者の意志尊重を基本理念としております。また職員と利用者の垣根を低くすることで、一方通行的な支援関係にならないようにも努めています。その後2012年にはNPO法人を取得し、法内施設として就労継続支援B型に移行しました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

2023年2月に発覚した「滝山病院事件」で、患者へのおぞましい虐待の映像がテレビで流され、大変な衝撃を受けました。日本の精神医療の根深い問題を改めて思い知らされました。そこで、このテーマの映画上映会とシンポジウムの開催することを企画しました。今回上映した映画は、100年以上前に日本の精神医療に痛烈な批判を与えた呉秀三の時代から今の精神医療の現状までを描いており、この100年で日本の精神医療の何が変わり、何が変わらないか、また今後のあるべき精神医療の在り方を考えるために開きました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

日本の精神医療の経過を描いた呉秀三の映画を鑑賞し、その後、この分野の課題に取り組む新聞記者、弁護士、ソーシャルワーカー、当事者をパネリストに招いたシンポジウムを開き、最前線で活躍されている専門家、当事者の方と日本の精神医療の課題と今後の展望について考えました。

- ① 開会の言葉
- ② 代表挨拶
- ③ 映画「夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年」上映
- ④ 休憩
- ⑤ ゲストスピーカーによるシンポジウム
- ⑥ 質疑応答と参加者からの発言
- ⑦ 閉会の言葉

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

今回は関係者を含めて85名の方が来場され、とても活発な議論が繰り広げられました。今回アンケートで来場者が感じられた感想や評価を取りました。アンケート結果は大変好評で、上映した映画、シンポジウムともに満足度が高く、今後の日本の精神医療について考えるきっかけや、医療関係者や福祉従事者の皆様にとっては、日頃の仕事や活動に活かしていけるような情報提供が出来たのではないかと考えます。

このような映画上映会や講演会を開くことは、とかく社会の理解が乏しい精神保健医療福祉分野の普及啓発にも一定の効果が達成されたと感じております。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回の企画の目的は精神障がいへの偏見・差別を解消することでしたが、それは簡単なことではありません。ただ今回のような映画上映会&シンポジウムの開催など地道な活動がとても重要です。参加された方たちが、また参加者がこの行事で学んだことを身の周りの人に話し、徐々にでも理解の輪が広がることを期待しております。

今回の企画を、私たち患者会が開催することにも重要な意味があると考えます。それは、この社会を変えたいという情熱は、当事者ゆえに強く思っているからです。その情熱・想いが参加者の心に伝わり、社会を変える力になることを期待しております。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

ダイバーシティ映画祭

in 八王子

～映画上映会&シンポジウム～

“夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年”

【シンポジウムコーディネーター】

福田敏克氏（福祉新聞記者 日本精神医療の問題について長年精力的に取材）

【シンポジスト】

相原啓介氏（高幡門前法律事務所弁護士 滝山病院の退院支援に取り組む）

古屋龍太氏（日本社会事業大学名誉教授 国賠訴訟原告団事務局長）

小峰盛光氏（ほっとスペース八王子会員 『おりふれ通信』編集委員）

【映画「狂気と蜜の日々」・「ダイバーシティユナイテッド」の紹介】

増山麗奈氏（ユーラシア映画祭代表理事 映画監督 アーティスト）

日時：2023年12月23日(土)14:00～17:45(13:30開場)

場所：八王子市生涯学習センター5階クリエイティブホール

(八王子市東町5-6 JR八王子駅北口徒歩4分)

定員：150名

参加費：一般1,000円 当事者500円

申込み：電話042-628-2319 or メール cxb01672@nifty.ne.jp

主催：ほっとスペース八王子・ユーラシア映画祭

協力団体：相模原市精神障がい者仲間の会（あしたば会）

相模原市精神保健福祉家族会（みどり会）

後援：八王子障害者団体連絡協議会（八障連）

今年2月、精神科滝山病院内における患者への“おぞましい虐待”が発覚し、日本精神医療の闇深さが浮き彫りになりました。地域でも偏見や差別で生きづらさを感じる精神障がい者は少なくありません。呉秀三は1918年刊行した書籍で「我が国十何万の精神病患者は実に、この病を受けたるの不幸のほか、この国に生まれたるの不幸を重ねるものというべし」と日本社会へ痛烈な批判を残しています。約百年前の言葉ですが、今でも当てはまると感じるのは私達だけでしょうか。今回、呉秀三の映画を鑑賞し、海外はイラクの精神医療の現状にも触れながら、日本精神医療の闇と、多様性が尊重される社会の実現について、皆様と一緒に考える機会にしたいと思います！

【お問い合わせ・お申し込み】

特定非営利活動法人 就労継続支援B型 ほっとスペース八王子

〒192-0053 東京都八王子市八幡町13-2 ふくしまやビル2階

電話042-628-2319 メール cxb01672@nifty.ne.jp